

一般財団法人取手市農業公社の穀類等乾燥調製施設及び水稻育苗施設更新に関するサウンディング調査対話結果の公表について

令和6年12月13日

1. サウンディングの実施スケジュール

令和6年 8月19日 サウンディング実施要領の公表
令和6年10月11日 現地確認の開催
令和6年11月 8日 サウンディングの実施

2. サウンディングの参加者

1 事業者

3. サウンディング結果の概要

水稻育苗施設の設備更新について、事前の現地確認により、水稻育苗施設の建屋を改造せずに収まる設備レイアウトについてご検討頂き、以下の様なご提案がありました。

対話の対象項目	対話概要
プラント等の更新に関する提案	<p>作業効率や安全面に配慮した設備の更新方法について</p> <ul style="list-style-type: none">・播種プラントは、老朽化の為、更新が必要である。・脱水機は、部品供給が無い為、更新が必要である。・育苗箱自動積重装置は、老朽化の為、更新が必要である。・育苗箱自動供給機は、老朽化の為、更新が必要である。・パッケージバルコンは、老朽化の為、架台等取付方法を見直し更新が必要である。・コンプレッサーは、老朽化の為、更新が必要である。・育苗コントロール盤は、老朽化の為、更新が必要である。・育苗箱自動積重装置手前のカーブローラーは、播種プラントと連動しておらず、トラブルの際には停止が遅れ、機械の破損や事故に繋がる恐れがある。また、他メーカー部品の為、新たに改造設計費、改造費が掛かる事から、カーブローラーは撤去した方が良い。・床土覆土自動供給装置は地下ピットになってタンクが埋設されているが、

	<p>地下ピットに多くの漏れた土が溜まっており清掃が大変な事から、地下ピットを埋めて、地上型の投入ホッパーに変更した方が、土が漏れにくくなり清掃も容易になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニトロッコ台車は、土と種籾の入った苗箱を30段重ね、4列完成したら、作業員が動かして出芽室まで運んでいたが、作業員の負担が大きい事から、負担を減らす為にも2列積みの台車に更新した方が良い。 <p>※以上の中で、播種プラントと育苗箱自動積重装置が最も更新急務なプラントであるが、提案したレイアウトは、一括更新しか出来ない。</p> <p>更新時期について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々、機械、鋼材の値段が高騰して来ているので、早ければ早い方が良い。 <p>更新するプラント等のリースについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人向けの機械ではなく、安易に移動や移設が出来ない為、リース登録は難しい。もし、リースが可能な場合であっても、修理を行う際には、リース会社を挟む事から迅速な対応が出来ない。 <p>更新費用にメンテナンスパックを含めた分割払いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンテナンスパックは融通が利かず、弊社から業者へ先に支払いを済ませる為、分割は出来ない。 <p>乾燥調製施設更新の提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社、グループ全体の方針として、他社が管理している施設への参加は出来ない。
--	---

4. サウンディング結果を踏まえた今後の方針

サウンディングの結果を踏まえ、水稻育苗施設の老朽化が進行しており、改修が必要である事を再確認しました。

設備停止による事業への影響が大きい事から、早期の更新に向けて、経営面の見直しを図り、資金面について検討して参りたいと思います。

また、今回、意見が得られなかった穀類等乾燥調製施設については、老朽化の現状を見極め、適切な改修を行いながら事業の継続を図り、再度、更新への検討を進めて参ります。